

月食は世界中どこで観測しても、満月の時にしか起きません。「普通の満月」は、太陽・地球・月が完全に一直線には並んでいません。つまり日ごろ見ている満月は、実は「完全な満月」ではなく、ごくわずかに「欠けた満月」なのです。しかし稀に（通常は1年から数年に一度）、太陽・地球・月が完全に一直線に並ぶことがあります。これこそ「完全な満月」なのですが、その場合は地球の影に月が入ってしまいます。それが月食です。今回の月食はほんのわずかに軸がずれていたため、皆既にはならず「部分月食」となりました。

月食は「満月の日」ではなく正確には「満月の瞬間」に起きます。その瞬間は、真夜中とは限らず、たとえば今回の月食が明け方に起きました。興味深かったのは、「満月が欠けた状態のまま沈んでいく」という現象が見られるという点です。これは「月没帯食（げつぼつたいしょく）」と呼ばれ、月食の中でも特に珍しい現象です。

私は当初、浅間山の山頂に沈む「欠けた満月」を撮影しようと思い、その場所（国道146号線の峰の茶屋下大カーブ）も特定していたのですが、浅間の噴気と去来する雲に阻まれて失敗しました。次の候補地は月没時刻が30分以上遅い、北軽井沢小学校裏の畑です。ここで「欠けたまま沈む満月」を動画で撮影しようと決めました。果たして撮影できた映像がこちらです。実に神秘的な天文現象でした。

(2023年10月29日午前5時50分頃／北軽井沢)

